



環境音響学研究室

-より良い音環境を目指して-

こんな問題に取り組んでいます

音は人々が暮らしの中で感じる環境要素の一つです。住空間、公共空間、都市、地域では、静けさ、良い音、良い響きが求められます。音声や音楽など必要な音が適切に伝わっているか、建物内や屋外の騒音など不要な音が抑制されているか。これらを解明すべく、音環境の予測・評価・設計の手法を研究しています。

こんなことがわかってきました

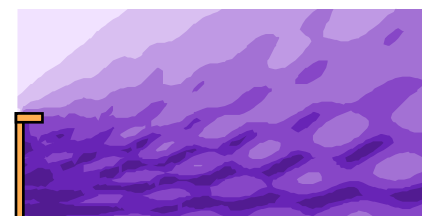
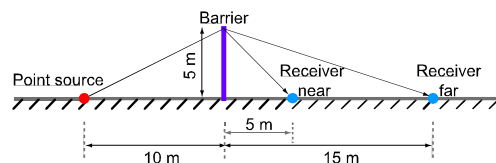
高速道路に設置される防音壁の効果を実験シミュレーションにより予測すると、先端部の形状が大きく影響することがわかりました。形状を工夫することで防音壁の高さを抑えられるので、景観や日照障害の面でも有利となります。

研究の成果はこんな分野に活かされます

開発した音環境シミュレーション手法は、防音壁の設計以外にも、地域の騒音アセスメント、設備機器など騒音源の解析、遮音材や吸音材など音響材料の開発、居室や車室内の音響予測、コンサートホールの設計にまで活かされます。

関連展示: 講義室6(653)、音響解析室(003)
連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻
佐久間哲哉 <sakuma@k.u-tokyo.ac.jp>

交通騒音の伝搬対策効果予測
＜防音壁の解析＞



室内音響設計のための音場予測
＜ホールの解析＞

